

(2) 既存用水の取水の安定化

河口堰の本格運用前は、マウンドより下流で取水していた既存用水では、地盤沈下による河床低下で塩水の侵入が進み、塩水が混入するようになり取水が困難でした。特に北伊勢工業用水では、第2取水口を設置して対処していましたが、それでも安定した取水はできていませんでした。しかし、長良川河口堰の本格運用以降は、堰の上流域が淡水となり安定した取水が可能となりました。

○北伊勢工業用水（水利権量 毎秒2.951m³）

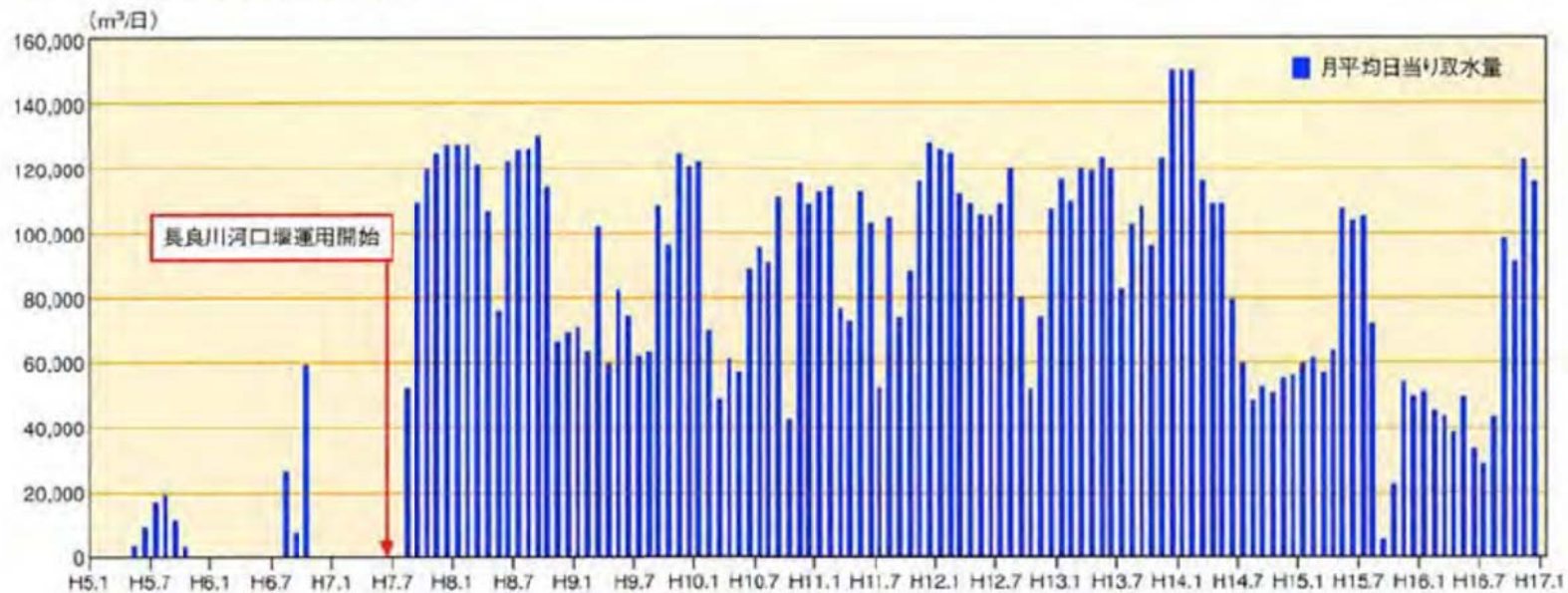
○福原用水（水利権量 毎秒0.256m³）

○桑名市長島町水道・かんがい用水・水路維持用水（水利権量 毎秒1.22m³）

また、マウンドより上流で取水していた長良川用水では、潮汐の影響を受けていた以前に比べ、河口堰の本格運用により水位が一定に保たれることになり、安定的な取水が可能となりました。

○長良川用水（水利権量 毎秒8.78m³） 岐阜県羽島市、海津市のかんがい用水。

●北伊勢工業用水取水実績



北伊勢工業用水道第二期：長良川自流、三重県は上流部岐阜県側での取水を希望したが、岐阜県が反対したため、第一取水口（千本松原）で開始。塩水が遡上するため、第二取水口（森下）を設置し、冬季には使用。河口堰完成後、老朽化した第二取水口を撤去して、第一取水口で耐震工事を実施。

河口堰を開門調査した場合の、三重県の対応の可能性と条件

(三重県) 県土整備企業常任委員会予算決算常任委員会県土整備企業分科会 会議録

開催年月日 平成24年3月6日(火) 自 午前10時1分～至 午前11時33分

○山本委員 ちょっと時間がありますので、この際、関連してお聞きしたいと思いますけど、今、長良川河口堰の上流、いわゆる千本松原の下流部のところで、県の工業用水の取水口を耐震構造でずっと工事していただいておりますよね。

○東地庁長 千本松原ですよ。

○山本委員 千本松原と長良川河口堰の間ぐらいのところから耐震構造で多度向いてやっていますわな。違うのかな。いや、企業庁やで、あれ。

○岡総括室長 千本松原って、地名の千本松原と私どもの施設のある千本松原取水所が……。

○山本委員 うん、そういうこと、そこ。

○岡総括室長 そうですよ、千本松原取水所ですね。はい、やっています。

○山本委員 えらい違うのやなあ、三重県と桑名市って。あそこで大きな耐震構造の管を1つやっていただいとって、あれをまだまだこれからずっと多度川の方を向いて工事をやられていく、こういうことをございますけど。小野委員からも、ちょっと前に長良川河口堰の話がございましたけども、愛知県は開門をというような形でいろいろ話が出て、ある面では自分たちの取水口は木曾川のええ水のところの上流から取り寄せるというようなことまで勝手に言うところがあるんですけど、企業庁の立場で、水道用水と工業用水、これは長良川河口堰のところからどのぐらい取ってみえて、そしてあと、例えば岩屋ダムですか、いろんなところから取るところがあるかもわかりませんが、全体の量の中で、長良川河口堰からとつとる水道用水と工業用水はどのぐらいの量というんですか、全体の比率というんですか、どんなところになるんですか。

○岡総括室長 長良川河口堰から取ろうとした場合、能力的には、日量32万トン取ることができます。ただ、それだけの需要がありませんので、現実にはそれだけ取ってません。現実にとつとるのは、千本松原取水所からですと、工業用水分12万トン。その中に実は水道用水分も入れてるとい方が正しいのかもしれないです。大体ポンプを2台回しますと12万トンとれますので。水道用水、工業用水合わせて大体12万トン、長良川河口堰から取ってま

す。
私どもには今、全体の需要が、北伊勢工業用水道で大体43万トン、それに水道用水が3万トンとかありますので、大体46万トン分の12万トン。そうすると、大体4分の1ぐらいの水量を平常時に依存して現状はそのぐらい取つとるという状況です。

○山本委員 43万トンというのは、現状での三重県全体の工業用水が43万トンで、水道用水が3万トンということですか。

○岡総括室長 今、43万トンと申し上げたのは、北伊勢工業用水道のユーザーがお使いになる水です。これが43万トン。それから、長良川河口堰に限定しましたので、長良川河口堰から取っておる3万トンとか4万トン、12万トンの内数ですよと言ったのは、中勢系へ行つとる水道用水の分という意味合いです。長良川河口堰から12万トン取つとって、分母が46万トンですよという説明を今、させていただきます。

○山本委員 契約水量の場合は、余り私も実態に合わなくてもええんですけど、実際あの長良川河口堰の水が、門を開放して、あそこから真水が取れなくなった場合に、三重県の日常的に使っとる水の全体量のうちのどのくらいになるかということをお聞きしたわけですね。でしたら、それは4分の1でええんですか。46万トンのうちの12万トンを長良川河口堰から取っとるということでもいいんですか。

○岡総括室長 今は、どのくらい長良川河口堰の水に依存しているんだというご質問だと思ってそういうふうにお答えさしてもらいました。今、委員がおっしゃられるように、長良川河口堰が開いて塩水が遡上したときに、三重県としてどれだけのダメージがあるんだというような話になりますと、これは今、何%と言うのが非常に難しい。渇水のとときか平常時とかで随分変わってくる話ですので、今、単純にどうなんだと言われると、少なくとも25万トンと7万トン、32万トンの取水が全くできなくなる。これは間違いのないです。

○山本委員 32万トンの場合は、ピークの数字で、いわゆる契約、あその河口堰から水をそんだけ取ってもよろしいよという量なんですやろ。

○岡総括室長 今、水利権上は工業用水が25万トン、それから水道用水が5万8800トンです。だから、純粹に足すと31万トン弱、それが水利権量です。だから、取る能力としてはありますけど、実はそこまでで、31万トンですね。

○山本委員 あんまりこんなことをやとつたらあかんのですけど、要はあの堰を開門して真水がとれなくなった場合、三重県にはどれぐらいの影響があるのかなということを知りたいなと思ってです。

ですから、何年前ですか、異常時いわゆる渇水時の、水が足らなくなったときということも想定して、あなたのところは取水量をはじめてみえるんで、そんなところからいくと、上限、下限いろいろあるかもわかりませんが、どのくらいの影響があるのかなと。もしわかれば。

○岡総括室長 一番わかりやすいのは、長良川河口堰から来てる水でしか送れないユーザーが現実にありますので、まずそのユーザーは完全にアウトになります。で、私どもの、北伊勢工業用水道だけでいえば、平常時でしたら木曾川筋に40万トンぐらいの水利権を持っています。それから、員弁川にも水利権を持っています。それから、伊坂ダムと山村ダムというダムがありますから、水量的には43万トンをカバーすることは、平常時でしたら可能なんです。ただ、木曾川の場合は、ご存じのように過去にも何回もありましたけども、渇水が頻発しています。そういったときの対応になると、40万トンあるという水量が20万トンになりますので全く足りなくなります。員弁川はそんなに水が取れませんから。そのときに長良川河口堰がなかったら、北伊勢工業用水道のユーザーはほとんど、断水とまでは言いませんが、半分以上の制限をかけざるを得ないと、こういった関係になります。もちろん中勢への水道用水、これは運べない。こういう状況です。

○山本委員 長良川河口堰のいろいろな会合にも、企業庁の方が出てきてみえることがありますので、それは企業庁にとっても、あの堰からの取水というのがある面ではなくなるということになれば、経営のもとから考えて新たな取水をしていかなあかんというような形になろうかと思っておりますけども、水のありがたみというのはなかなかわからんもんですから、今、耐震化工事にお金をかけてやっていただいとるんでこの河口堰の水というのが、ある面では三重県の工業用水、水道用水にとって大変な位置を占めとる大切な水源であるということ、機会があれば、また聞かせてもらおうと思っております。

